

Profile

歴史小説家。本名：黒板擴子。1925(大正14)年東京生まれ。3歳の時に母方の郷里である古河に移る。東京女子大学卒。

1951年に『三條院記』が『サンデー毎日』の懸賞に入選し文壇デビュー。1965年、鎌倉時代の幕開けを4つの異なる視点から描いた連作短編小説『炎環』で第52回直木三十五賞を受賞。同作をはじめとする一連の『鎌倉もの』はNHK大河ドラマ『草燃える』の原作となった。以後、1982年に『氷輪』で女流文学賞、1984年に『この世をば』等で菊池寛賞、1988年に『雲と風と』で吉川英治文学賞、2008年に『岩倉具視』で毎日芸術賞を受賞。

このほか『歴史をさわがせた女たち』シリーズや『異議あり日本史』など歴史エッセイでも数多くの佳作を残し、NHK大河ドラマ『毛利元就』の原作としても知られる『山霧』や『北条政子』『流星』『乱紋』など歴史の中の女性の役割に光を当てた『女性史もの』も高く評価された。



追悼 永井路子さん

1月27日、古河市名誉市民・古河大使で直木賞作家の永井路子さんが逝去されました。97歳でした。
3歳から結婚されるまでの20年余りを古河で過ごされた永井さん。ふるさとである古河市のPRやまちづくりへの助言のほか、古河歴史博物館や古河文学館の開館に当たり、貴重な意見とともに多額の寄付を頂戴しました。特に、古河文学館には蔵書や自筆原稿などの貴重な資料を寄贈。物心両面にわたりご支援をいただき、古河市の文化的まちづくりに多大なご尽力を賜りました。
古河文学館では、12月24日まで追悼コーナーを設け、永井さんへのメッセージを受け付けています。

特別展示のご案内

古河文学館では、永井さんの功績をたどる特別展示を予定しています

期間 10月28日(土)～12月24日(日)
時間 9時～17時(入館は16時30分まで)
費用 大人200円、小中高生50円

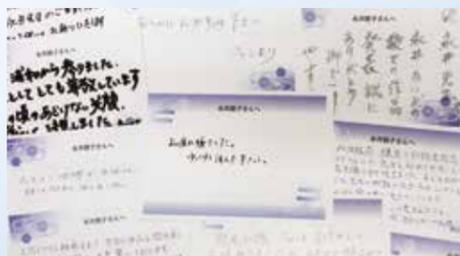
古河文学館・永井路子旧宅



▲古河文学館では、年間を通して永井さんに関する展示を行っています

▲永井路子旧宅には、生前に愛用していた机や本棚なども展示

追悼コーナーの様子



Contents (目次)

- 3 追悼 永井路子さん
- 4-11 <特集>
令和5年度施政方針/
古河市の予算
- 12 ◆愛猫の登録が始まります
- 13 ◆市税の納付方法が拡大しました
- 14 ◆市の組織機構の一部が変わります/染谷香予さんがアジアシニア空手道選手権大会で優勝しました
- 15 健康百科/私のオススメ!!
- 16 キラリ古河ビト
- 17 今月の古河っ子
- 18 古河歴史見聞録
- 19 図書館の本棚から/わたしの夢
- 20-21 まちの話題Report!
- 22-23 古河っ子だより
- 24-35 お知らせページ/広告
- 36 古河市LINE公式アカウント友だち募集中/読者アンケート



P4-11



P20



P21

針谷市長からの メッセージ



永井路子先生の訃報に接し、深い悲しみと大きな喪失感を禁じ得ません。戦後文壇を常にリードしてきた歴史小説の第一人者であり、それらの作品はとてつもなく分かりやすく歴史が身近なものに感じられました。また、古河市名誉市民として本市の文化振興に多大なご尽力を賜りました。

古河のまちを愛してくださった先生をしのび、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

今月の表紙は「春の味覚、みいつけた」



鮮やかに色づいた大粒のイチゴは、第11回茨城いちごグランプリ(一般の部)で金賞を受賞したはまの農園の「紅ほっぺ」です。

甘くてみずみずしいイチゴに、子どもたちも大喜び! 幸せそうに春の味覚を堪能していました。